

1年生(11月) 『ひきざん』単元指導計画 その

		1・2	3	4	5
ねらい		10いくつかから1位数をひいて、差が1以上になる減法の計算のしかた(減加法)がわかる。	10いくつかから1位数をひいて、差が1以上になる減法の計算の理解を深める。	10いくつかから1位数をひいて、差が1以上になる減法の計算のしかた(減々法)がわかる。	10いくつかから1位数をひいて、差が1以上になる減法の計算に習熟する。
主な学習活動		<p>も うさぎを13びきかっています。こやのそとに9ひきでていきました。こやの中になんびきのこっているでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かっていることと、聞いていることをはっきりさせる。 ・減少の場面であることを把握し、減法で計算できる根拠を考えて立式する。 ・既習学習である「のこりはいくつ」「ちがいはいくつ」との違いを考える。 <p>かばらからひけないときの、けいさんしかたをかんがえよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロックなどを用いて考えさせる。 ・どこから9をとればいいのかを考える。 ・各自の考え方を発表し、話し合う。 ・13を10と3とみて、10のまとまりから9をひいて3をたせばよいことを確かめる。 <p>まばらからひけないときは、10のまとまりからひいてけいさんするとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習問題をし定着を図る。 	<p>も11-8のけいさんのしかたをいみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を想起させる。 <p>かひきたしほうをつかって11-8のけいさんのしかたをおはなししよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の考え方を発表し、話し合う ・ブロックを操作して被減法の11を10と1に分解し、10から減数の8をひき、残りの1と2で3のように発表する。 <p>まひきたしほうは、11を10と1にわけて、10のまとまりから8をひいて1をたすとよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習問題をし定着を図る。 	<p>もにんじんが12本あります。3本たべます。なん本のこるでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かっていることと、聞いていることをはっきりさせる。 ・減少の場面であることを把握して、減法で計算できる根拠を考えて立式する。 <p>か3はどこからひけばよいかかんがえて、けいさんしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロックなどを用いて考えさせる。 ・どのようにして3をひくか考えさせる。 ・各自の考え方を発表し、話し合う。 <p>ま12のばらからひく、ひきひきほうがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習問題をし定着を図る。 	<p>もカードとりをしてたくやさんは8まいゆかりさんは15まいとりました。どちらがなんまいおくとったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分かっていることと、聞いていることをはっきりさせる。 ・比較の場面であることを把握して、減法で計算できる根拠を考えて立式する。 <p>かどちらのやりかたがよいか、わけをはつきりさせて、こたえをみつけよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロックを用いて考えさせる。 ・各自の考え方を発表し、話し合う。 ・減加法・減々法どちらの方法でも計算できるよさを実感する。 <p>まけいさんのしかたをくふうすると、けいさんがしやすくなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・練習問題をし定着を図る。
評価規準	関・意・態	くり下がりのある減法計算の方法を、10のまとまりから1位数をひくことに着目して考えようとする。			
	考え方	くり下がりのある減法計算の方法を、10のまとまりに着目してブロックを使って考える。	くり下がりのある減法計算の方法を、10のまとまりに着目してブロックを使って考える計算する。	ブロックを使って考え計算する。	
	表・処		10いくつかから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算ができる。		10いくつかから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算を減加法や減々法でできる。
	知・理	10いくつかから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算のしかたがわかる。		10いくつかから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算のしかた(減々法)がわかる。	
評価方法		・ノートの記述・発言内容 ・練習問題・自己評価	・ノートの記述・発言内容 ・練習問題・自己評価	・ノートの記述・発言内容 ・練習問題・自己評価	・ノートの記述・発言内容 ・練習問題・自己評価
きめ細かな指導					

1年生(11月) 『ひきざん』単元指導計画 その

		6(5)	7(6)	8(7)	9(8)	10(9)
ねらい		減法の式と絵を見て、減少や比較の問題を作ることができる。	ひき算カードを使って計算の練習をし、10いくつかから1位数をひいて、差が1位数になる計算が確実にできるようにする。また答えが同じになるカードを集めることができる。	計算カードを使っているいろいろなゲームをし、10いくつかから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算に習熟する。	計算カードを使っているいろいろなゲームをし、10いくつかから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算に習熟する。	単元における基礎・基本を確実にしたり、発展的な問題に取り組み、数学的な考え方をより深めることができる。
主な学習活動		<p>もえをみて、13 - 6のしきになるおはなしをしましょう。</p> <p>・減法の式と絵を見て、減少や比較の場面をとらえ減法の問題をつくる。</p> <p>か「のこりはどれだけ」と「どちらがどれだけおおい」の2つのもんだいをつくってみよう。</p> <p>・とんぼに着目して減少の話をつくる。 ・花に着目して比較の話をつくる。 ・作った話を発表する。</p> <p>ま トンボが13びきいます。6ぴきとんでいきました。なんびきのこっているでしょう。あかいはなが13本、きいろいはなが6本さいています。どちらがなん本おおいでしょう。</p> <p>・作ったお話の式と答えをノートに書き答えを求める。</p>	<p>かカードをつかって、はやくけいさんができるようにしましょう。</p> <p>(ア)各自一人で答えが同じになるカード集めをする。 (イ)二人一組で練習する。 (ウ)フラッシュカード的な扱い</p>	<p>か カードをつかってゲームをしよう。</p> <p>教科書P76 ・カードさがし ・おおきさくらべ</p> <p>まならべたカードをたて(またはよこ)にみると、こたえが1ずつへっている。</p>	<p>かこたえがおなじになるカードあつめをしよう。</p> <p>教科書P77 ・カードとり</p> <p>まおなじこたえのカードは、ひかれるかすが1ふえると、ひくかずも1ふえる。</p>	教科書P84 れんしゅう 補充問題
評価規準	関.意.態					
	考え方					くり下がりのある減法の計算の方法を、10のまとまりから1位数をひくことに着目して考える。
	表・処	減法の式と絵を見て、減少や比較の問題の場面をとらえ、減法の問題を作ることができる。	10いくつかから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算が正しくできる。	くり下がりのある減法の計算を使ったゲームができる。	くり下がりのある減法の計算を使ったゲームができる。	10いくつかから1位数をひいて、差が1位数になる減法の計算が正確にできる。
	知・理		順序よく並んだひきざんの計算カードを見て答えの大きさの変わり方がわかる。			減加法や減々法による計算のしかたがわかる。
評価方法		・ノートの記述・発言内容 ・練習問題・自己評価	・計算カードを処理する正確さと速さ ・自己評価	・たし算カードのゲームに取り組んでいる様子	・たし算カードのゲームに取り組んでいる様子	・ノートの記述・発言内容 ・練習問題・自己評価
きめ細かな指導				ペアの児童の能力差を配慮	ペアの児童の能力差を配慮	